

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

広島国際大学内部質保証委員会

(責任者名) 清水 壽一郎

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等																																											
学内からの視点																																												
プログラムの履修・修得状況	<p>令和7年度におけるプログラム構成科目の履修・修得状況は、以下のとおりであった。データ・AIの活用領域および利活用のための技術を学ぶ「データサイエンスⅡ」「データサイエンスⅢ」については、選択科目であるため履修者数の増加が課題であるが、新入生に対し、ガイダンスにおいて本プログラムの意義等を分かりやすく伝える取組を行っており、その結果、「データサイエンスⅡ」の履修者数は増加した。今後は、合格率の向上も図るよう、きめ細やかな指導を継続していきたい。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>データサイエンスⅠ (必修)</th> <th>情報リテラシー (必修)</th> <th>統計学 (必修/選択)</th> <th>データサイエンスⅡ (選択)</th> <th>データサイエンスⅢ (選択)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">令和7年度</td> <td>履修者数</td> <td>812</td> <td>851</td> <td>442</td> <td>161</td> </tr> <tr> <td>合格者数</td> <td>772</td> <td>743</td> <td>364</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>合格率</td> <td>95.1%</td> <td>87.3%</td> <td>82.4%</td> <td>68.3%</td> </tr> <tr> <td>前年度差異 (合格率)</td> <td>-2.5%</td> <td>-6.6%</td> <td>-2.3%</td> <td>5.8%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">令和6年度 ※初年度</td> <td>履修者数</td> <td>899</td> <td>899</td> <td>464</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>合格者数</td> <td>877</td> <td>844</td> <td>393</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>合格率</td> <td>97.6%</td> <td>93.9%</td> <td>84.7%</td> <td>62.5%</td> </tr> </tbody> </table>		データサイエンスⅠ (必修)	情報リテラシー (必修)	統計学 (必修/選択)	データサイエンスⅡ (選択)	データサイエンスⅢ (選択)	令和7年度	履修者数	812	851	442	161	合格者数	772	743	364	110	合格率	95.1%	87.3%	82.4%	68.3%	前年度差異 (合格率)	-2.5%	-6.6%	-2.3%	5.8%	令和6年度 ※初年度	履修者数	899	899	464	88	合格者数	877	844	393	55	合格率	97.6%	93.9%	84.7%	62.5%
	データサイエンスⅠ (必修)	情報リテラシー (必修)	統計学 (必修/選択)	データサイエンスⅡ (選択)	データサイエンスⅢ (選択)																																							
令和7年度	履修者数	812	851	442	161																																							
	合格者数	772	743	364	110																																							
	合格率	95.1%	87.3%	82.4%	68.3%																																							
	前年度差異 (合格率)	-2.5%	-6.6%	-2.3%	5.8%																																							
令和6年度 ※初年度	履修者数	899	899	464	88																																							
	合格者数	877	844	393	55																																							
	合格率	97.6%	93.9%	84.7%	62.5%																																							
学修成果	<p>プログラムを構成する科目における受講生授業アンケートには、パフォーマンスの変化を問う設問が設けられている。本設問は、この授業を通して新たな知識・技能・態度が身に付いたかを問うものであり、各科目における回答の平均は以下のとおりである。6点満点の設問に対し、平均4.31～4.88点を得ており、学修成果は概ね高い水準にあると判断できる。</p> <p>(1) データサイエンスⅠ : 4.88                  (2) 情報リテラシー : 4.80                  (3) 統計学 : 4.78                  (4) データサイエンスⅡ : 4.31                  (5) データサイエンスⅢ : 4.86</p>																																											
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>プログラムを構成する科目の受講生授業アンケートの結果は、以下のとおりである。6点満点の設問に対し、全項目において平均点は4点を超えており、学生の理解を促す取組が一定の成果を上げていると判断できる。さらに、前設問における学修成果の評価から、学生のパフォーマンスも向上していることがうかがえ、理解度についても問題はないと判断できる。</p> <p>(1) データサイエンスⅠ                  【聴覚情報】4.52 【視覚情報】4.54 【理解度の把握】4.57 【フィードバック】4.55</p> <p>(2) 情報リテラシー                  【視覚情報】4.62 【視覚情報】4.67 【理解度の把握】4.63 【フィードバック】4.47</p> <p>(3) 統計学                  【聴覚情報】4.63 【視覚情報】4.52 【理解度の把握】4.82 【フィードバック】4.65</p> <p>(4) データサイエンスⅡ                  【聴覚情報】4.12 【視覚情報】4.01 【理解度の把握】4.33 【フィードバック】4.09</p> <p>(5) データサイエンスⅢ                  【聴覚情報】4.71 【視覚情報】4.52 【理解度の把握】4.80 【フィードバック】4.29</p> <p>※【聴覚情報】は教員の話し方、【視覚情報】は視覚的な資料の明瞭さ、【理解度の把握】は小テストやアンケート等での理解度の把握に努めていたか、【フィードバック】は、学修成果に対する適切な評価や指導についてアンケートを取っている。</p>																																											
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>プログラムを構成する科目の受講生授業アンケートにおける満足度に関する設問の結果は、以下のとおりである。いずれの科目も6点満点中の平均点が4点を超えており、満足度は非常に高い水準にある。このことから、学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度についても、高い水準にあるものと判断できる。</p> <p>(1) データサイエンスⅠ : 4.68                  (2) 情報リテラシー : 4.70                  (3) 統計学 : 4.70                  (4) データサイエンスⅡ : 4.06                  (5) データサイエンスⅢ : 4.76</p>																																											

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>プログラムの実施も2年目となり、情報系の授業に関わらない教員にも少しずつプログラムについての認知が広がり、学生にプログラムの履修を勧めてもらえる機会も少しずつ増えている。</p> <p>履修認定に必要な科目である「データサイエンスⅠ」が、入学直後の全学の学生に対して必修科目として実施される。この授業での第1回目において、授業担当者にプログラムの紹介をしていただくよう徹底している。後期開講の選択科目である「データサイエンスⅡ」については、後期になってからでも履修変更できる旨を案内することで、新年度当初は履修予定がなかった学生も履修するというケースも増えた。</p> <p>このように、授業担当教員も広報に尽力することにより、履修者増加に繋がっている。</p>
<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>令和6年度から開講したプログラムのため、履修者が卒業した後に評価を行っていく。評価については、同プログラム修了者の進路状況の分析、企業からの評価を卒業後に実施する予定としている。評価にあたっては、就職先への修了生の活躍状況やプログラムへの要望の聞き取り調査を予定している。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>2025年9月6日に学外評価委員として企業、自治体、本学後援会等の関係者を招き、「学外評価委員会」を実施した。本プログラムに関しては、以下のような意見があった。</p> <p>&lt;意見&gt; 手法にまで踏み込んだ高度な内容であり、統計ツールを使わせるのは学生にとって難易度が高いのではないかと。特に回帰分析やロジスティック分析は意義も含めて伝えることは難しいと思われるがどのように工夫しているか。</p> <p>&lt;回答&gt; 本学は医療系の大学であるため、統計学に関しては以前より標準的に行ってきた。そのため、高校レベルの内容から始め、基本的なこと、高度なことは各学科の専門科目で深めてもらえるよう、橋渡しのような形で教育を設定している。データサイエンスⅡ、Ⅲに関しては、理論的な部分は割愛し、データ分析の方法と、それにより何が明らかになるのかに焦点を当てて指導して、特別な知識がなくてもデータを活用できるようにしている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>データサイエンスを学ぶ意義を理解してもらうために、データ分析などの演習に使用するデータは、学生の将来に関係するような医療や健康などに関するデータを使用している。学生がこれから学ぼうとしていることに関するデータを使用することで、興味をもってもらうと共に、実際にどういった解析ができ、どういった結果を得てそれをどう活用するのかを実感してもらえるよう工夫した。</p> <p>学ぶ楽しさを理解してもらうために、アニメやゲームなどの学術的ではないデータを使用した分析などの演習を実施している。学生にとっては理解の難しい医療などのデータだけでなく、学術とは対極にあるものもデータであることを知ってもらい、結果が出ることを楽しんでもらえるよう工夫した。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>全学必修のデータサイエンス関連科目については、情報統計部会に所属する教員が授業教材を作成し、その教材を全学で利用することで、全学で統一された水準の教育を提供した。受講クラス(学科)により受講者の理解度が異なるため、授業担当者の裁量で課題内容を変更することを認め、受講者の理解度に適した授業内容にすることで無理なく学べるようにした。また、一部科目は動画教材によるオンデマンド方式で実施することで、個人差があっても受講者のペースで学修できるようにしている。</p> <p>昨年度は、一部選択科目において、生成AIを用いた授業も試験的に実施した。生成AIを使用したことのある学生は多いものの、課題の実施に活用するよう指示をすることで使用していいかわからない学生が多いという気づきを得られたため、今後は「より良い生成AIの利用」に焦点を当てた課題を追加する検討を始めたい。</p>